

報告番号	① 乙 第 号	氏 名	遠藤正之
主 論 文 題 名 :			
金融情報システムにおける経営戦略としてのリスクマネジメントの体系化及びその実践			
<p>我が国の金融事業者が運営する情報システム（以下金融情報システム）は、経済の様々な変化への対応と安定的な稼働の双方を要請される「基幹インフラ」であり、その重要性が高まっている。金融情報システムは顧客の財産情報を扱いつつ、広範囲の異質な決済ネットワークにつながるなど、複雑かつ大規模なシステムであるとともに、高度な信頼性・安定性を要求されるシステムであり、リスクマネジメントの難易度が格段に高い。</p>			
<p>その一方で、経営戦略としての金融情報システムのリスクマネジメントにどう取り組むべきかという経営者向けのガイドラインは、未だ明確な形では示されておらず、経営者視点でのリスクマネジメントの研究も十分に行われていなかった。そこで、本論文では、経営戦略としての金融情報システムのリスクマネジメントの包括的な枠組みとして、「リスクマネジメント戦略の 6 観点(CORE-OQ)」を提案し、その枠組みについて、情報システム開発に關与する金融機関従業員を対象とした問題意識調査による妥当性検証、企業の取り組みの調査による事例検証、クラウド技術、情報セキュリティ最新動向、地銀共同化、リスクアペタイト・フレームワーク等の経営環境変化への検討を行った上で、金融情報システムのリスクマネジメントの体系化と評価を行うものである。</p>			
<p>本論文の結論となる「リスクマネジメント戦略の 6 観点(CORE-OQ)」は、経営者が金融情報システムのリスクマネジメントを行うにあたって、最低限意識すべき項目を集約したものであり、以下の 6 項目である。</p>			
<ol style="list-style-type: none">1) 経営トップのコミットメントと支援 (Commitment) 、2) 適切な組織体制整備による IT ガバナンス強化 (「組織体制と IT ガバナンス」) (Organization) 、3) 経営 IT リスクの適切な評価と対策の構築 (「IT リスクマネジメント」) (IT Risk Management) 、4) 経営戦略に合致した業務拡張性及びシステムの一貫性の確保による二重投資の排除 (「拡張性一貫性確保」) (Extensibility) 、5) 外部関係者の要請と IT のケイパビリティの間をつなぐ要件定義最適化 (非機能要件を含む) (「要件定義最適化」) (Optimization) 、6) 品質重視の仕組構築 (Quality) 。			
<p>以上の各項目の英字の頭文字を取って、金融情報システムのコアとなるものとの意味も込め、「CORE-OQ」(コア OQ)と命名する。</p>			